

「ラッパ」の響き、怒りか恵みか

黙示録 10 章、マタイ 24 : 31

I テサロニケ 4 : 16-17

マタイ 24 : 31

序論 :

先週から今週は、なかなかあわただしい一週間となりました。うれしいことはマッキーとゆかりさんの結婚、アメリカ人チームと一緒に宣教に出かけたこと、そして多くの新来者が教会に訪れたことなどたくさんありました。しかし同時に、ゆかりさんのお姉さん、かおりさんの急逝、またわたしの同僚、黒宮先生の死亡という悲しい出来事もありました。精神的には上がったり、下がったり、忙しく考え事をしたり、とかなりハードな1週間でした。しかし、うれしいことと同時に、死に直面することがあった事で自分の生き方やいのちの意味などを深く考える機会にもなりました。

I. 死は裁きか、恵みか

死は、本質的には裁きです。アダムの罪からこの地上に入りました。それ以来、ありとあらゆる人が死んできました。ですから、皆死を恐れたり、否定的に考えたりします。しかし聖書は死を見るときにわたしたちの人生の軌道修正ができるのだ、とも言っています。宴会の席に行くよりは葬儀の場所に行く方が、主をよく知ることができる、というのです。先ほど豊川海軍工廠空襲70周年の演劇の話で伊藤勝利君からうかがいました。今から70年前豊川の空襲で亡くなった人々は今、もういません。しかし、その人たちの死を通して私たちは何かを考え、今の行動をただすことができることを考えるとき、その死が決して無駄にならずに済むと思うのです。人の死から学び、人の死を通して自分の人生を考えることができるならば、死も裁きというだけでなく、恵みであるといってもいいのではないのでしょうか。

II. 「神は何をしているのか？」

もちろん死がなく、幸せばかりの人生であれば、それに越したことはありません。死や苦しみがあることによって、一体、神はどこにいるのか、存在するのか、神がいるならなぜこんなひどいことがおきるのか、という方がいます。その気持ちはわかります。私も感情的にはそう思うときもありますから、けれども順風満帆、理想どおりの生活を送れたとしたら、その人が神を認めるか、といえ、そうでもありません。たいていの人は困ったときの神頼み状態となり、神を無視するのではないのでしょうか。問題の中では「神は何をしているのだ」と怒り、平安の中では「神はいなくてもよい」と、自分の力を誇る。私もそんな人間なのです。

III. 聖徒たちの祈りの答えとしての黙示録

黙示録は聖書の最後を飾る書物として有名です。しかし、黙示とあるようにその内容は人間の理屈では想像がつかない強烈な天変地異、神の裁きが連発して起こります。それはやりすぎではないか、主は情けがないのか、と短絡的に私などは、その時代に生きている人々への同情が先走ってしまいます。しかし、主は身勝手にこの裁きをくださったのでしょうか。黙示録の9章までを見ると、ラッパの音によって裁きが始まり、自然界に異変が起こり、人間の3分の1が死ぬなどの悲劇が起きますが、その前に天に静寂があるのです。そこで何が起きているのでしょうか。

香が焚かれています。そこから煙が立ち上り、神の座に届いています。それが充満したときに、裁きが始まるのです。この香とは何ですか。聖徒たちの祈りなんですね。つまり、主はただ裁きが主の意志によるというだけではなく、人間の正義を求める心、罪に対して報いてください、という願いに答えておられるということなのです。ですから黙示録は私たちの祈りの答えなのです。主は今まだ哀れみ深く裁きを待っておられるのですが、最終的には聖徒たちの祈りに答え、その義を示してくださるのです。なんと感謝なことでしょうか。私の義を求める祈りも、あなたの正義を願う祈りも決して地には落ちておらず、主の前の香炉に蓄えられているのです。

IV. 神の義が示される

神の裁きが始まります。ラッパの音が響き渡ると次々に災害が襲いかかります。もちろん主は一気に滅ぼすようなことはせず、人々がそのときにも悔い改めることのできる機会を与えています。残念ながら、大半の人は「死を願い」、悔い改めることをしないので、ラッパのさばきは呪いのしるしとなって、この世界を狂わせて行くのです。

V. ラッパの意味を考える

けれども、私たちの知るラッパの音はそれだけではありません。マタイやテサロニケにあるように信じるものたちを全世界から集め、しかも主が来られる空中再臨の時にはイエスの元にひきあげ、私たちをその愛の交わりに入れてくださるのです。

結論：

今、この日本は不安な状況です。政治や経済がどんどん方向に進んでいくかわかりません。けれども主は必ずこの世の不正にけりをつけ、私たちの救いを完成し、聖徒たちの祈りに応えてくださいます。この世界に神の厳しいラッパの音が響き渡る以上に、主は救いとよき報いのラッパをあなたのために鳴らしてくださるのです。